

2017年度 キャリタス就活 学生モニター調査結果 (2016年10月発行)

## 第10回調査

# 10月1日時点の就職活動調査

正式内定日(10月1日)を迎え、学生の内定状況はどのように変化しただろうか。10月1日現在のキャリアス就活・学生モニターの就職活動状況について調査を行ったところ、内定率は9割を超え、リーマン・ショック前の高水準に達したことがわかった。

### 1. 10月1日現在の内定状況

- 内定率は91.2%。前回調査(8月1日時点 85.8%)より5.4ポイント上昇
- 10月の内定率が9割を超えるのは、リーマン・ショック前の2008年卒以来9年ぶり

### 2. 就職先が決まっていない学生の今後の予定

- 「就職先が決まるまで就職活動を続ける」63.1%
- 文系女子は就活継続が83.8%、理系男子は大学院進学が32.1%。属性で傾向異なる

### 3. 就職活動継続者の状況と企業探し

- 選考中企業1.8社、これから受験予定2.2社。8月調査より増加
- 新たな企業を探す手段、「就職情報サイト」が87.0%で最多。「大学の求人票」51.9%

### 4. 中小企業への選考応募状況

- 「中小企業にエントリーした」学生は71.1%。エントリー社数は14.9社で前年より3.4社減
- 知ったキッカケは、「就職情報サイト」73.7%、「合同企業説明会」39.7%の順

### 5. 中小企業を受けた理由、受けなかった理由

- 受けた理由は「やりたい仕事に就ける」(42.5%)、「会社の雰囲気がよい」(40.2%)
- 受けていない理由は「知名度が低い」(37.7%)が前年より約6ポイント増加

### 6. 入社までの半年間の過ごし方

- 文理差が大きく、文系が多いのは「趣味・遊び」「アルバイト」、理系は「専門分野の勉強」

### 7. 内定後のフォローと内定者研修

- 希望するフォローのペースは「1カ月に1回程度」32.9%。研修や課題には62.8%が賛成

### 8. 就職活動の費用

- 平均138,763円。2009年に就活費用を調査し始めて以降、最も低い金額

### 9. 就職活動でついた嘘

- 嘘をついた学生は74.1%。「第一志望でない企業に『第一志望です』」が最多(72.6%)

## 調査概要

- 調査対象 : 2017年3月に卒業予定の大学4年生(理系は大学院修士課程2年生含む)  
 回答者数 : 1,129人(文系男子364人、文系女子338人、理系男子280人、理系女子147人)  
 調査方法 : インターネット調査法  
 調査期間 : 2016年10月1日~6日  
 サンプルング : キャリタス就活2017学生モニター(2016年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」)

◆本資料に関するお問い合わせ先 : 03-4316-5505/株式会社ディスコ キャリタスリサーチ

## 1. 10月1日現在の内定状況

10月1日現在の学生モニターの内定率は91.2%。前回調査(8月1日時点)では85.8%だったので、この2カ月間の伸びは5.4ポイント。当調査で10月の内定率が9割を超えたのは2008年卒者(90.7%)以来9年ぶりで、リーマン・ショック前の水準に達した。企業の採用意欲が依然旺盛で、夏以降も積極的に内定を出している様子がうかがえる。

内定率は男子より女子で高く、文理とも女子は9割を超えている。

内定取得学生のうち就職先を決めて就職活動を終了した者の割合は94.2%。8月調査では83.9%だったので10ポイント余り上昇した。調査時点での就職先決定者の割合は、モニター全体の85.9%となる(グラフは次ページ)。

### 10月1日現在の内定状況

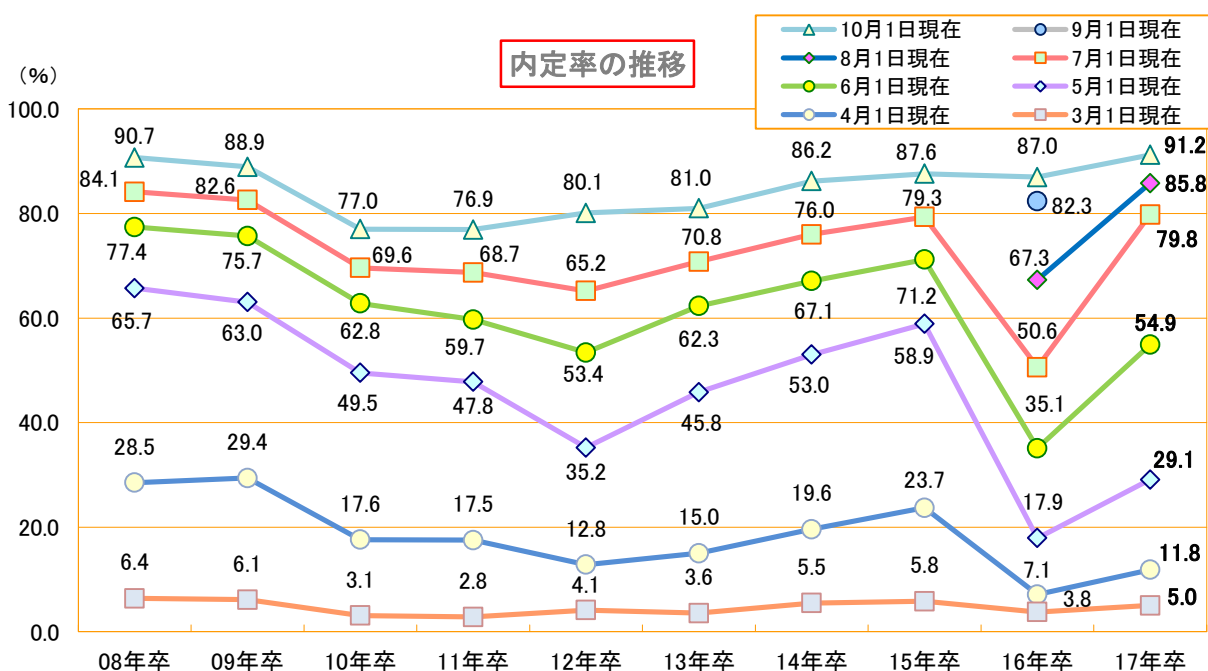
\*「内定」には、内々定を含む (%)

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子	
内定あり	91.2 (87.0)	87.6 (84.8)	93.8 (85.8)	91.8 (88.1)	93.2 (92.1)	
内定なし	8.8 (13.0)	12.4 (15.2)	6.2 (14.2)	8.2 (11.9)	6.8 (7.9)	
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	94.2 (90.4)	91.5 (85.8)	94.0 (89.2)	96.5 (95.6)	96.4 (92.6)
	活動は終了したが複数内定保持	1.4 (1.4)	2.8 (2.6)	0.9 (0.9)	0.8 (0.9)	0.0 (0.6)
	進学などの理由で就職活動を中止	0.3 (1.0)	0.0 (0.3)	0.0 (1.5)	0.8 (1.5)	0.7 (0.6)
	就職活動継続	4.2 (7.2)	5.6 (11.3)	5.0 (8.4)	1.9 (2.1)	2.9 (6.3)

(社)

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数/平均	2.3 (2.4)	2.4 (2.9)	2.2 (2.3)	2.2 (2.2)	2.4 (2.2)

※ ( ) 内は2015年の同調査の数値

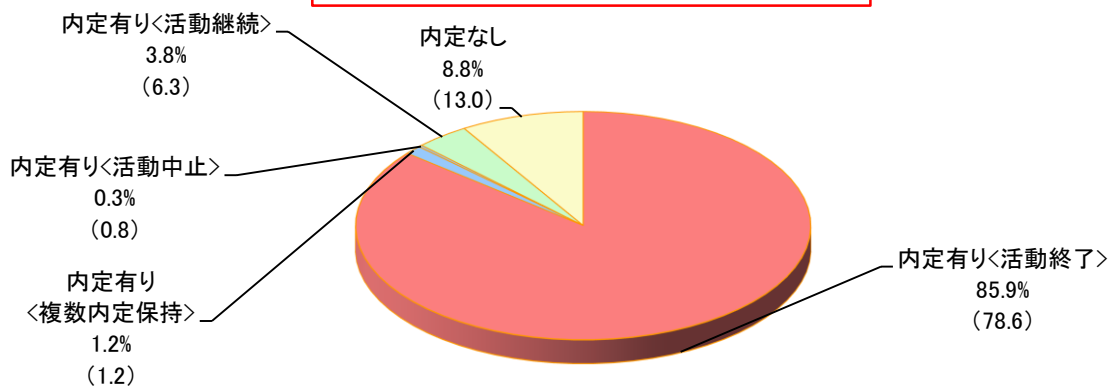


※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17卒は6月

※15年卒以前は8月、9月のデータはなし

※17年卒は9月のデータはなし

学生モニターの内定の有無および活動状況



※( )内は2015年の同調査での10月1日現在の数値

## 2. 就職先が決まっていない学生の今後の予定

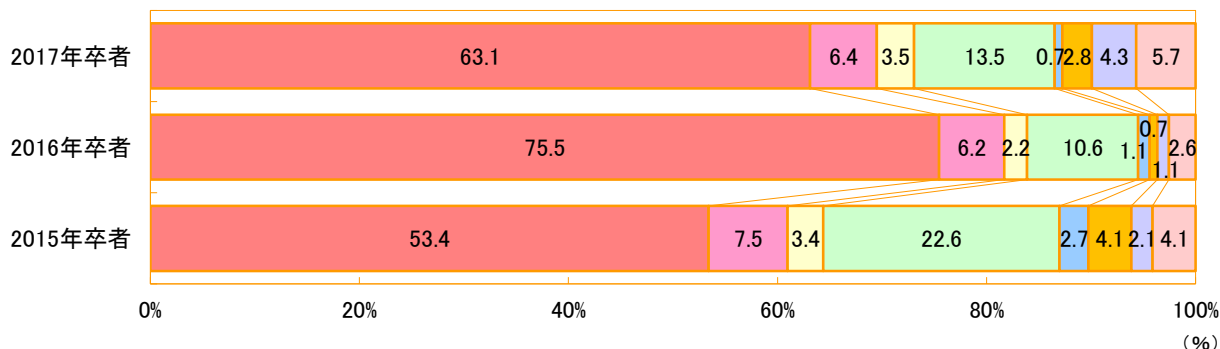
10月1日現在で就職先が決まっていない学生 (モニター全体の12.6%) に、今後の予定を尋ねた。

「就職先が決まるまで就職活動を続ける」が最も多く、63.1%。就活継続学生の割合が前年 (75.5%)、前々年 (53.4%) と大きく異なるのは、選考解禁のタイミングの違いによるものだろう。前年 (2016年卒) は選考解禁がそれまでより4カ月遅かったことで、10月時点でも就職活動を続ける学生が多かった。今年 (2017年卒) に関しては、前年より2カ月早まったことで、継続学生の割合は減少したと見られる。

ただ、就職先未決定者の今後の進路は文理や男女で大きな差があり (下表)、文系女子は「就職先が決まるまで就職活動を続ける」が多く (83.8%)、理系男子は「大学院に進学する」が多い (32.1%)。また、「留年して就職活動をやり直す (就職留年を決めた)」は、女子に該当者はいないが、男子は文理それぞれ1割程度見られる (文系男子9.5%、理系男子10.7%)。

就職先が決まっていない学生の今後の予定

- 就職先が決まるまで就職活動を続ける
- 留年して就職活動をやり直す (就職留年を決めた)
- 卒業して就職活動をやり直す (就職浪人を決めた)
- 大学院に進学する (修士 / 博士課程)
- 専門学校に入学する
- 海外に留学する
- 卒業して非正規雇用で働く (派遣、アルバイトなど)
- その他



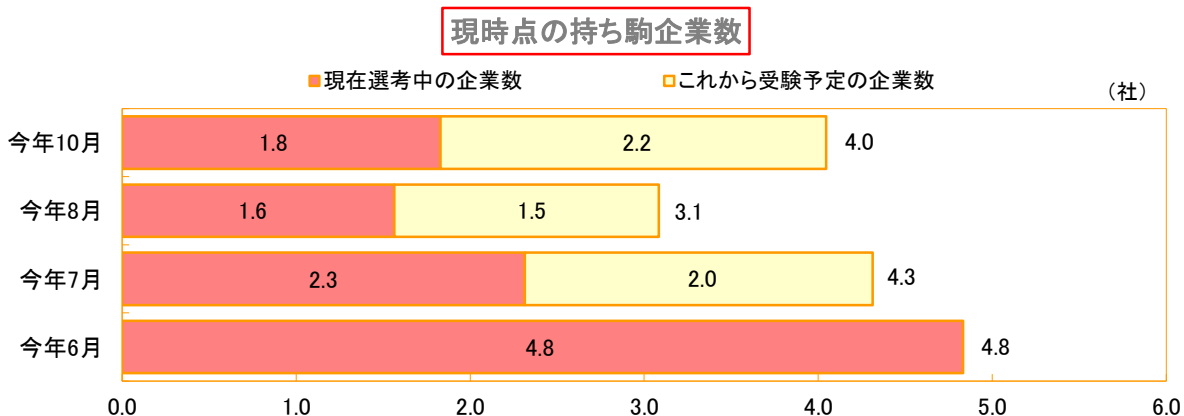
	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
就職先が決まるまで就職活動を続ける	63.5	83.8	42.9	46.2
留年して就職活動をやり直す (就職留年を決めた)	9.5	0.0	10.7	0.0
卒業して就職活動をやり直す (就職浪人を決めた)	4.8	0.0	3.6	7.7
大学院に進学する (修士 / 博士課程)	6.3	8.1	32.1	23.1
専門学校に入学する	0.0	2.7	0.0	0.0
海外に留学する	4.8	2.7	0.0	0.0
卒業して非正規雇用で働く (派遣、アルバイトなど)	6.3	0.0	3.6	7.7
その他	4.8	2.7	7.1	15.4

### 3. 就職活動継続者の状況と企業探し

就職活動を継続している学生の、現在選考中の企業数は1.8社で、これから受験する予定の企業数は2.2社。いわゆる「持ち駒企業」をあわせて4.0社。持ち駒企業は時期を追うごとに減少していたが、ここにきて増加に転じている。実際、企業への調査では4割強が採用活動を続けており(2016年10月・内定動向調査)、追加募集や募集継続の案内を受け取ることで、応募に繋がる学生が少なくないことを裏付ける。

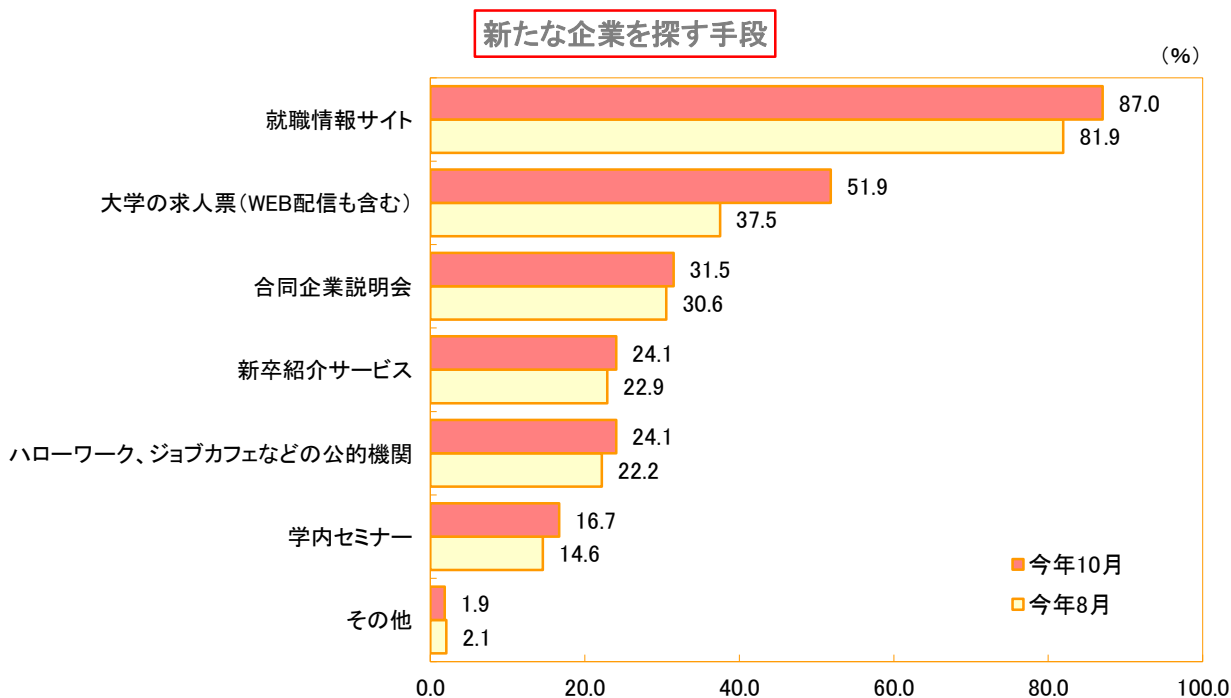
また、今後のエントリー予定社数も平均3.6社あることから、受験社数はさらに増加していくと見られる。

そこで、新たな企業を探す手段を尋ねると、「就職情報サイト」が87.0%で最も多く、「大学の求人票」(51.9%)、「合同企業説明会」(31.5%)の順だった。「大学の求人票」が前回調査(今年8月)よりも大幅に増加しているのが目立つが、就職戦線も後半戦となり、マッチングのしやすさを重視した探し方へと変化してきていると考えられる。



※「これから受験予定の企業数」は、6月調査なし

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
今後のエントリー予定社数/平均	3.6	3.3	3.7	4.5	3.5



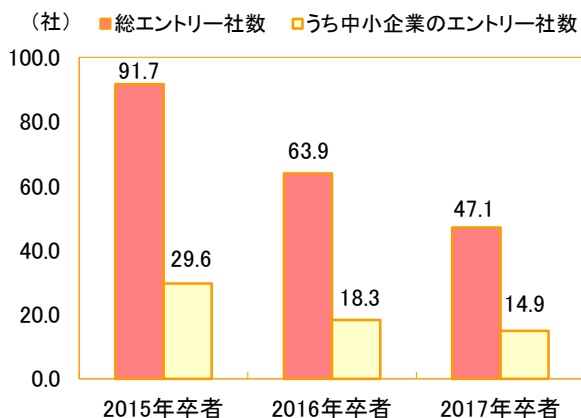
#### 4. 中小企業への選考応募状況

全員を対象に、従業員300人未満の中小企業への応募について尋ねたところ、「中小企業にエントリーした」(71.1%)、「中小企業の面接試験を受けた」(63.5%)ともに、前年調査よりわずかに増加した。しかし、中小企業へのエントリー社数は14.9社で、前年調査(18.3社)より3.4社減少し、前々年(29.6社)からは半減した。総エントリーに占める中小企業の割合は変化していないものの、総エントリー社数が大きく減少したのに伴い、中小企業へのエントリー社数も同様に大きく減少した。一方、面接受験社数は3.2社で前年(3.4社)、前々年(3.9社)から大きな減少は見られず、中小企業にとって、まずは学生に知ってもらい、エントリーしてもらうことが重要と言えるだろう。

受験した中小企業をどのように知ったのかを尋ねると、「就職情報サイト」が73.7%で圧倒的に多い。以下、「合同企業説明会」39.7%、「学内企業説明会」27.1%、「新卒紹介サービス」12.2%と続く。「インターンシップ」は前年より2.4ポイント増加したものの、1割未満(9.7%)にとどまっている。

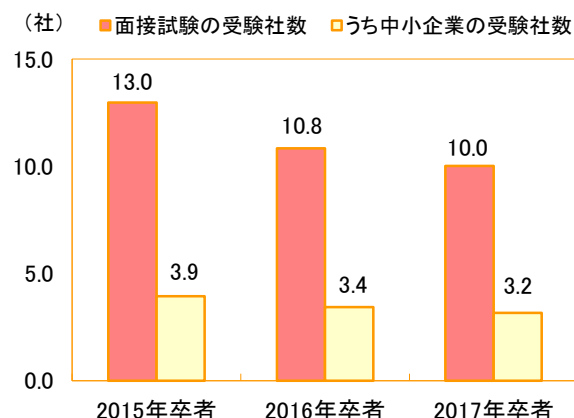
	(%)	
	全体	前年全体
中小企業にエントリーした	71.1	68.8

エントリー社数

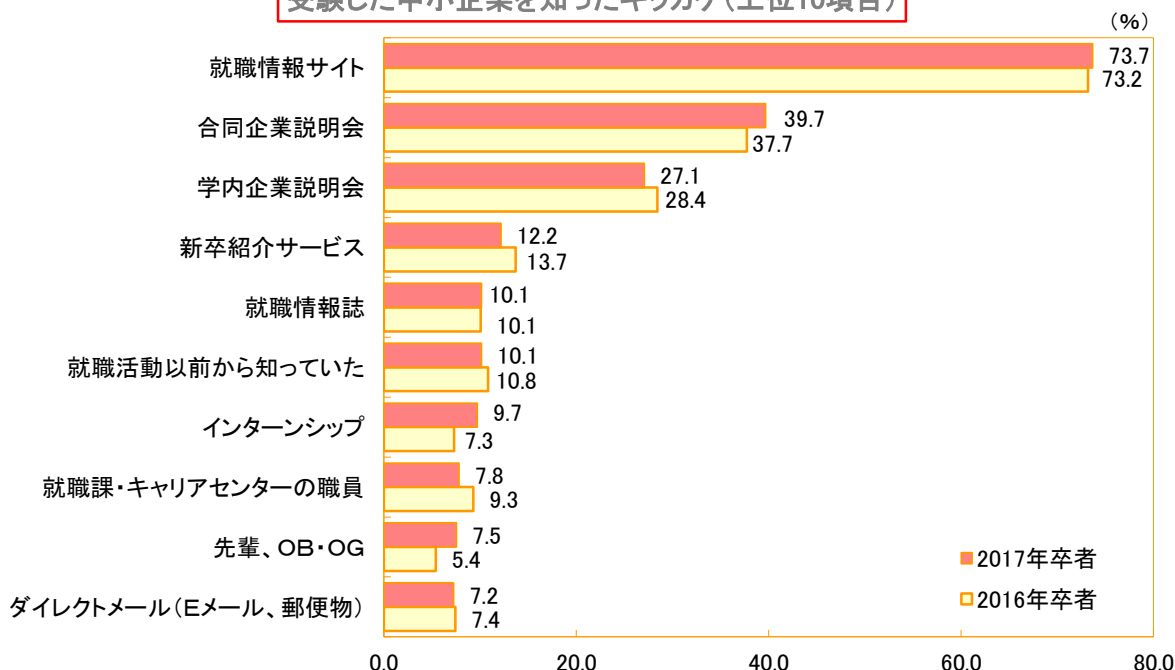


	(%)	
	全体	前年全体
中小企業の面接試験を受けた	63.5	60.2

面接試験受験社数



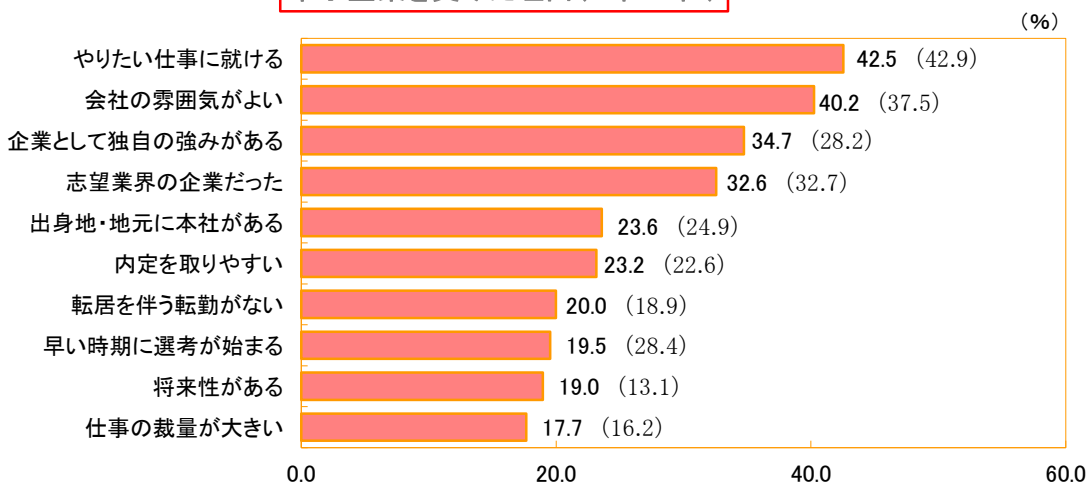
受験した中小企業を知ったキッカケ(上位10項目)



### 5. 中小企業を受けた理由、受けなかった理由

中小企業を受けた理由を見ると、「やりたい仕事に就ける」(42.5%)、「会社の雰囲気がよい」(40.2%)、と続いた。「独自の強みがある」(34.7%)は、前年から6.5ポイント増加した。「早い時期に選考が始まる」(28.4%)は、前年(19.5%)から大幅に減少した。選考時期の繰上げにより、本命企業の前の「練習」として受験する学生が減ったのだろう。一方、受けていない理由は、「知名度が低い」(37.7%)が前年より約6ポイント上昇。採用広報期間の短縮により、大手志向の学生が中小企業まで見る余裕がなかったと推測される。短い広報期間でも、自社の強みや魅力をしっかり発信する必要があるようだ。

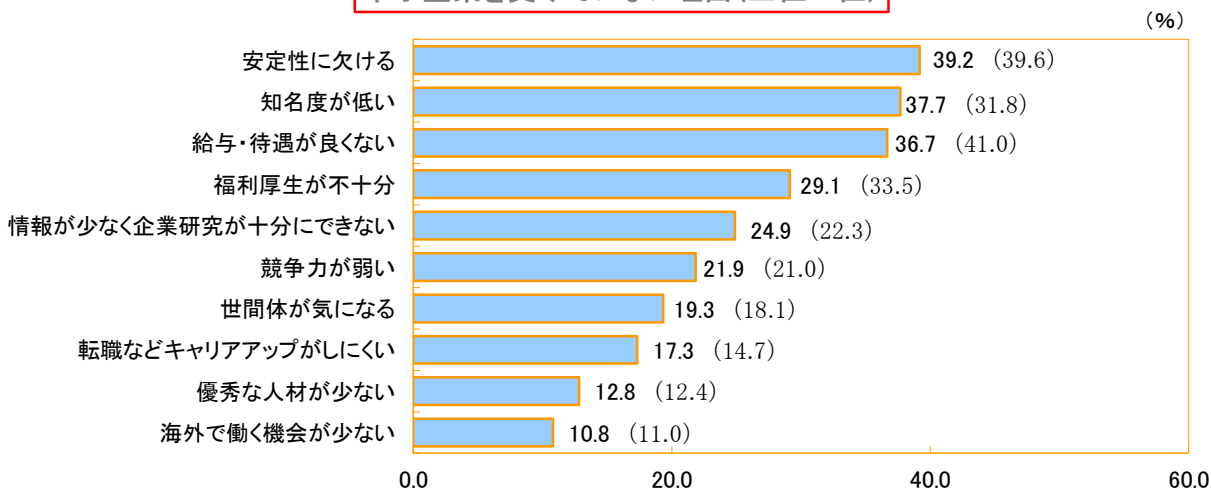
中小企業を受けた理由(上位10位)



※( )内は前年調査

\* 全14項目の中からあてはまるものすべてを選択

中小企業を受けていない理由(上位10位)



※( )内は前年調査

\* 全16項目の中からあてはまるものすべてを選択

#### ■ 中小企業を受けた印象

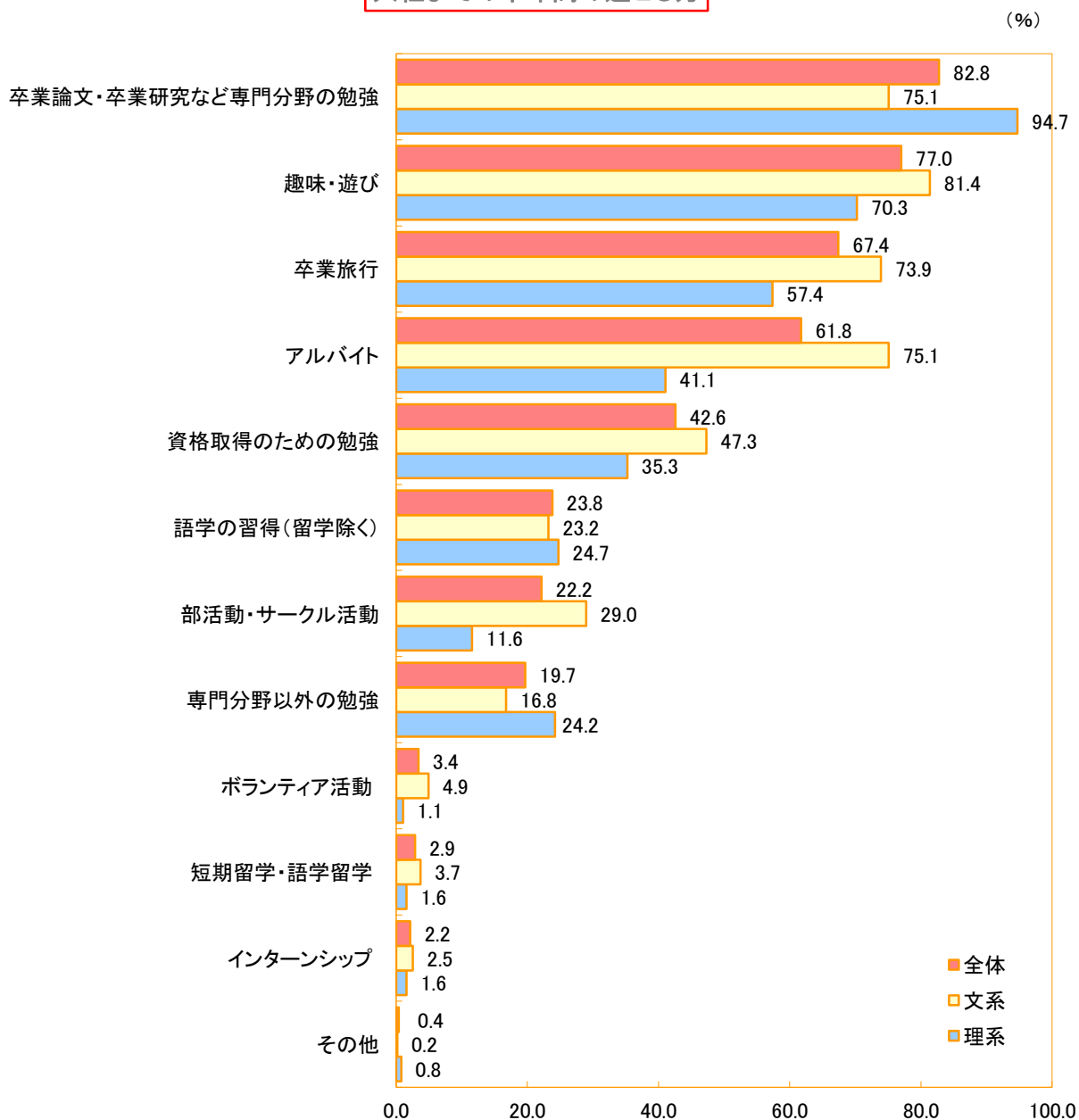
- 知れば知るほど良い企業がたくさんあったので、もっと知名度をあげるべきだと感じた。 <理系女子>
- 大手と比べると、説明会などでも社員の声を実際に聞ける機会が少ないように感じたので、そのような機会が増えればよいのではと思いました。 <文系男子>
- 説明会の回数や場所が少なく参加が難しいことがあった。 <理系男子>
- アットホームだが、福利厚生など女性の働きやすさを考えた時不満を感じるがあった。 <文系女子>
- 「内定を出せば必ずうちへ来てくれるか？」など選考途中に試すような質問が多かった。 <文系男子>

## 6. 入社までの半年間の過ごし方

就職先を決定し活動を終了した学生は、入社までの約半年間をどのように過ごすのだろうか。

就職活動終了学生に尋ねたところ、最も多かったのは「卒業論文・卒業研究など専門分野の勉強」で8割強 (82.8%) に上った。但し、文系が75.1%なのに対し理系学生は94.7%と、文理で20ポイント近く差が見られた。一方、2番目に多かった「趣味・遊び」(77.0%) と4番目に多かった「アルバイト」(61.8%) は文系のほうが高い。特に「アルバイト」は、文系が7割を超えているのに対し (75.1%)、理系は4割程度 (41.1%) にとどまった。文系と理系では、残りの学生生活の過ごし方が大きく異なっていることがわかる。

入社までの半年間の過ごし方



\* 就職活動終了者が回答



## 7. 内定後のフォローと内定者研修

就職活動を終了した学生に、内定後、企業にどのくらいのペースでフォローしてもらいたいと思っているのかを尋ねた。最も多かったのは「1カ月に1回程度（毎月）」で32.9%。次いで「2カ月に1回程度（隔月）」26.7%、「3カ月に1回程度」16.0%と続いた。

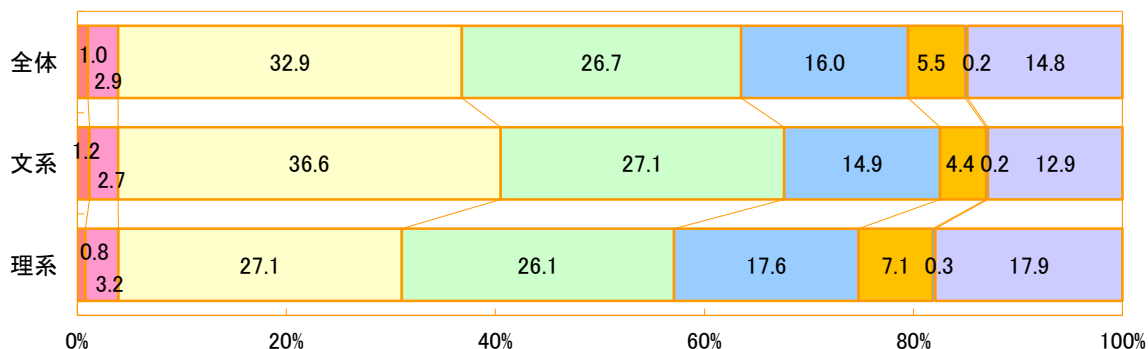
一方で「基本的にフォローは必要ない」という回答も1割強（14.8%）。「フォローは必要ない」と回答した学生は、文系12.9%、理系17.9%と、理系のほうが5ポイント多い。希望するフォローのペースも、全体的に理系学生のほうが頻度は低く、頻繁なフォローは望まない傾向が表れている。前ページで見た入社までの過ごし方で、理系学生の94.7%が「卒業論文・卒業研究など専門分野の勉強」を挙げていることから、学業の妨げにならない範囲にとどめてほしいと考えている様子が見える。

また、内定期間中の研修や課題が出ることについての考えを尋ねたところ、「基本的に賛成」21.4%と「どちらかといえば賛成」41.4%を合わせた62.8%が賛成との意向を示した。語学の学習や資格取得など自己啓発へのサポートを、企業に望む学生は少なくないようだ。但し、これについてもやはり文理で差が見られ、文系学生の約7割（68.5%）が賛成しているのに対し、理系学生では5割台（54.2%）にとどまる。

いずれにしても、学生の負担にならないよう、それぞれの状況を踏まえた対応を心掛けたい。

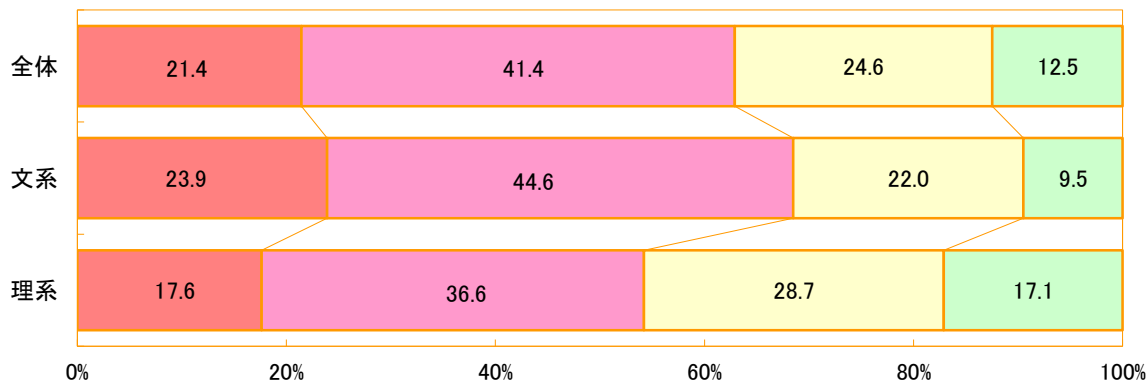
### 企業に希望する内定後のフォローのペース

- 1週間に1回程度(毎週)
- 2週間に1回程度(隔週)
- 1カ月に1回程度(毎月)
- 2カ月に1回程度(隔月)
- 3カ月に1回程度
- 半年に1回程度
- それ以下のペース
- 基本的にフォローは必要ない



### 内定期間中に研修や課題が出ることへの考え

- 基本的に賛成
- どちらかといえば賛成
- どちらかといえば反対
- 基本的に反対





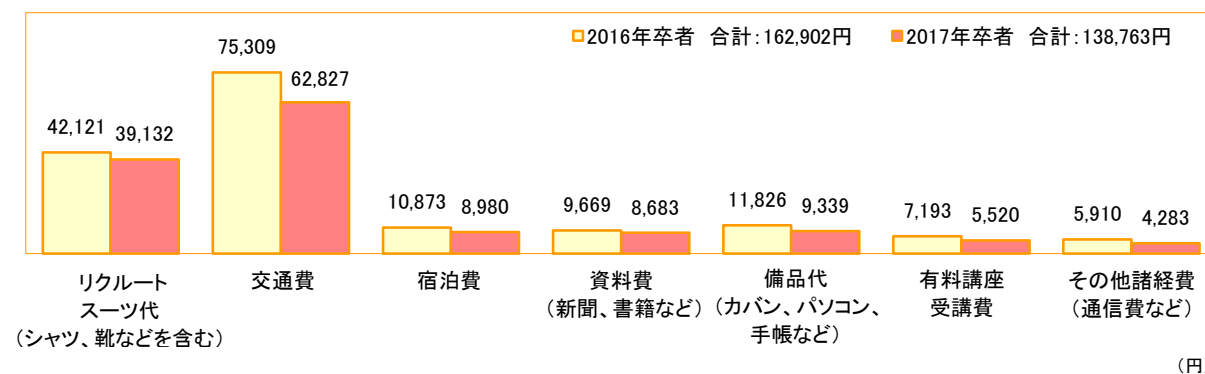
## 8. 就職活動の費用

就職活動にかかった費用について、「リクルートスーツ代」「交通費」「宿泊費」「資料費」「備品代」「有料講座受講費」「その他諸経費」の7つの項目ごとに金額を尋ねた。各項目の平均を算出し足しあげると138,763円となり、前年調査(162,902円)を2万円以上、下回った。これは、2009年に就活費用を調査し始めて以降、最も低い金額だった。

今年特に大きく減少したのが、就活費用のうち最も多くを占める「交通費」で、前年の75,309円から62,827円へと約12,000円減少した。また、「宿泊費」も前年の10,873円から8,980円へと約2,000円減った。今年は、昨年と比べて就職活動期間の短縮や、学生に優位な売り手市場などの影響から、学生一人あたりのセミナー参加社数や面接などの選考試験受験社数が減少した。それに伴い、交通費や宿泊費などが減少したと考えられる。また、企業から交通費の支給を受けた学生は7割に上り(72.8%)、これも費用を下げの一因となった可能性がある。遠方から参加・受験した学生は、2万円以上支給された人も多かったようだ。

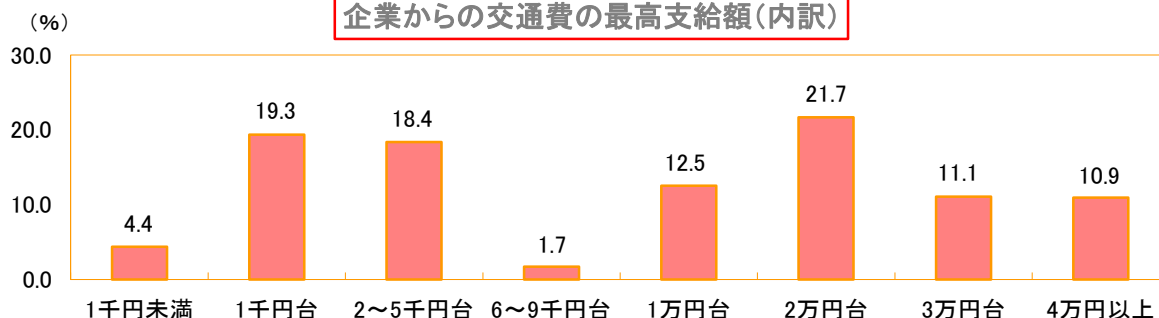
全体の費用を地域別に見ると、平均額が最も高いのが「九州・沖縄」で、216,853円。2番目に高いのが「北海道」の186,036円。地方は交通費の額が多く、「九州・沖縄」では10万円を超えており、「北海道」も10万円近い。全体の金額が低いのは「関東」115,282円、「近畿」138,508円といった都市圏。交通費・宿泊費の違いが合計額に大きく影響していることがわかる。

就職活動の費用(平均)



	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄
合計	186,036	177,933	115,282	151,426	138,508	144,557	216,853
リクルートスーツ代	34,600	40,968	41,517	38,551	37,141	31,974	37,227
交通費	99,018	91,790	42,505	72,403	65,731	85,316	114,424
宿泊費	31,740	22,548	1,488	13,239	8,962	11,371	26,455
資料費	9,044	6,927	9,184	12,788	5,970	5,016	10,341
備品代	6,833	7,903	10,509	7,820	8,361	6,381	13,073
有料講座受講費	667	3,871	5,528	1,956	8,541	1,560	10,568
その他諸経費	4,133	3,925	4,551	4,669	3,802	2,940	4,765

企業からの交通費の最高支給額(内訳)



### ■就職活動の費用について

- 1日に何社か説明会を回る時は、昼食代や時間つぶしに入るカフェでの飲食代などがかかる。  
<総額 96,000 円>
- 大学入学時に就活でも使えるようなスーツを購入したため、新しくスーツを購入せずに済んだ。  
<総額 53,000 円>
- スーツなどは後でも使えるのでためらいはなかったが、一回の説明会や面接にいくらかかると思うと、なかなか多くの企業にエントリーする勇気が出なかった。  
<総額 90,000 円>
- 地方にある企業は交通費支給の企業が多いため、交通費はあまりかからなかった。  
<総額 55,000 円>
- 地方から東京に通っていたので、交通費と宿泊費が馬鹿にならなかったです。基本的に夜行バスとカプセルホテルを利用していましたが、それでもかなりの額でした。会員登録や早期予約で割引を受ける、合間はカフェではなく図書館に行く、就活生用の施設を利用するなど少しでも節約するよう心掛けました。  
<総額 310,000 円>
- 遠征する際は、出来るだけ予定を詰めて、交通費が支給されるイベントに参加するなどして、交通費を浮かすと良いと思う。  
<総額 205,000 円>
- 交通費は、選考が進んでいくと企業側で支給してくれるのでありがたかった。  
<総額 65,000 円>
- 就活中はアルバイトをあまり入れられないので、やり繰りが難しかった。ただ、両親からも就活費用を出してもらえたので良かった。  
<総額 88,000 円>

## 9. 就職活動でついた嘘

就職活動で「嘘」をついた経験があると回答した学生（モニター全体の74.1%）に、どのような嘘をついたのかを尋ねたところ、最も多かったのは「第一志望ではないのに『第一志望です』と嘘を言った」で7割超（72.6%）だった。前年より約3ポイント増加した。全体的に前年よりも増加傾向。次いで「他社の選考状況を聞かれ嘘をついた」50.3%、「学生時代のエピソードに嘘を混ぜた」33.9%と続いた。

